

安岡正篤—近代日本の儒教的国家主義者
Yasuoka Masahiro: A Confucian Nationalist for Modern Japan

プロジェクト代表者：ロジャー・ブラウン

埼玉大学教養学部教授

Roger H. Brown, Professor

Faculty of Liberal Arts, Saitama University

本研究の目的は、国家主義者であった安岡正篤(1898-1983)の思想と政治活動を検討し、安岡の日本近現代史における意義を明らかにすることである。安岡は、戦前・戦中・戦後を通して政財官界と深い交流があり、当時の官僚や政治家、財界人に大きな思想的影響を与えた。したがって安岡の思想的內容、日本の政治抗争における役割を理解することには、重要な歴史的意義があると考えられる。日本の政財官界に与えた影響力の大きさにもかかわらず、近年まで学術研究が少ない安岡の思想と活動を明らかにすることで、戦前から戦後にかけての日本政治思想史より包括的を捉えることを最終的な目標とする。

代表者は安岡の思想における儒教的な影響と教養主義・人格主義の重要性を示し、安岡が大正時代の人格主義、殊に新カント主義的な教養と儒教的な修養の影響を受け、東洋的、或いは日本主義的な教養主義を唱えたことを論じてきた。安岡の思想と昭和初期の政治との関係については、安岡の「東洋思想」における牧民論と内務官僚の「牧民官」意識に関する研究論文を発表した(“Shepherds of the People: Yasuoka Masahiro and the New Bureaucrats in Early Showa Japan,” *Journal of Japanese Studies* 35.2 (Summer 2009): 285-319)。この論文では、安岡と内務官僚の関係に焦点を当て、政党内閣期と「非常時」におけるこの牧民論の内容を分析した。その結果、昭和初期における安岡の「東洋思想」、さらに内務官僚の「牧民官」意識の位置づけを考察することが可能になり、昭和初期の政党政治に対する非難、つまり党治対官治の関係についての理解をさらに深めることができた。

研究期間においては下記のような研究成果をあげてきた。

- 1) 学術論文：研究機関以前から昭和初期の党治対官治抗争について、安岡と親しい内務官僚であった吉田茂（戦後の首相と別人）の思想と活動を検討し、二つの国際学会において研究報告した。その成果をもとに“(The Other) Yoshida Shigeru and the Expansion of Bureaucratic Power in Interwar Japan”という研究論文を完成した。この論文は、安岡の教化活動を熱心的に協力した吉田を「牧民官」意識の観点から考察するものである。吉田は神社局の地方指導体制の確立と社会局の労働政策作成に関わり、協調会会長として勤めた1931-34年間に労資関係を労資調整から労資一体への変更を展開し、1935年に設置された内閣調査局の初局長になって革新官僚と統制派の幕僚たちの交流を強化した。当時「怪物」と言われるほど活躍をした吉田であるが、彼に関する研究は極めて少ない。この論文は『斯民』や『神社協会雑誌』に掲載された地方統治に対する吉田の意見、新官僚の母体と呼ばれた国維会の機関紙『国維』に載った政党政治批判や革新案の分析を中心に執筆し、上智大学の日本研究誌 *Monumenta Nipponica* に投稿した。(現在査読済み、再提出中)

- 2) 学術論文：本論文は近年の国際学会発表と国際ワークショップの報告をもとに執筆したものである。安岡の東洋思想における、いわゆる「武士道哲学新論」を始めて分析し、それに見られる人格主義と官治論、また近代日本の国家主義的武士道イデオロギーの一面を明らかにした。“Yasuoka Masahiro’s “New Thesis of *Bushidō* Philosophy”: Cultivating Samurai Spirit and Men of Character for Imperial Japan”という題名で東京大学社会科学研究所の英文日本研究誌 *Social Science Japan Journal* に投稿した。（現在査読済み、再提出中）
- 3) 研究報告と学術論文：「安岡正篤の「東洋思想」における欧米観」という研究報告を完成し、平成23年11月5日に行われた第5回「近代日本における反欧米思想の系譜」研究会で発表した。この報告をもとに原稿を執筆している。この研究会の成果は本論文も含めて長谷川雄一（東北福祉大学教授）編纂の論文集として出版されることになっている。（現在執筆中）
- 4) 研究報告と学術論文：「安岡正篤の「東洋的牧民思想」と内務官僚」という原稿を完成し、これに基づいて平成24年3月18日に埼玉県で行われた第59回「地方人材と郷学作興の研修会」で発表をした。この原稿に訂正を加えた上、国内学術誌に投稿するつもりである。（現在訂正中）
- 5) 著書：研究期間の主要な課題は、上記の研究の内容と論点、またその他のテーマをさらに検討し考察を深め、安岡に関する国内外初の総括的著書を仕上げることであった。安岡に関する研究は近年多少は増えてきたものの、その総括的研究書はまだ現れていない。そのために著書（英文）の原稿（仮題：*Confucianism and Nationalism in Modern Japan: Yasuoka Masahiro, 1898-1983*）を完成させ、大学出版会に提出する予定である。本書の七章まで下書きができたが、現在は執筆・訂正中である。

この研究プロジェクト経費に関しては150,000円を全て図書とコンピュータ関連の消耗品（インクジェットカートリッジと用紙）の購入に利用した。